

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	黒石市児童デイサービスセンター天使の森		
○保護者評価実施期間	令和6年12月5日		～ 令和6年12月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和7年1月21日		～ 令和7年1月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月7日、12日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用人数に対して人員配置基準以上に配置している。	女性・男性を含む職員は児童発達支援管理責任者をはじめ、保育士、幼稚園教諭、介護福祉士、強度行動障害養成支援者修了者など様々な専門分野の職員を配置しており、一人ひとりの発達や状況に応じてきめ細かい支援を行っている。	各職員の専門分野の領域だけでなく、他の分野の研修会に参加し、知識・情報の理解を深めて現場に活用していく。
2	自由活動、個別活動、集団活動の時間を決めて支援を行っている。また、活動プログラムが固定化しないよう工夫している。	自由活動、個別活動、集団活動は毎日実施し、時間を決めて活動を行っている。 季節変化に合わせた活動の設定や、曜日に合わせて活動内容が変化するよう取り組んでいる。	さまざまな活動プログラムを用意し、社会性や生活スキルを見つけていきます。子どもたちが仲間と関わりながら協調性やコミュニケーション能力を養うことができる活動を多く取り入れていく。
3	こどもの通う学校との情報交換を行い、教育方針や支援内容等の共有がなされている。	夏休みに期日を設けて、こどもが通う学校の担任教諭2名と当園職員2名で参加している。教育方針や支援内容等の共有がなされ、お互いの指導や支援を確認することができている。	丁寧な支援を行うために、相談支援事業所担当者、施設併用利用の担当者を交えて情報交換会を開催し、一貫した対応を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	こどもたちの支援について職員会議やミーティングで共有し一貫した支援を行っているようにしているが、解釈の違い等で連携がはかれない時がある。	メモすべき事柄を残すこと、メモの活用が十分になされていない、支援内容の変更があったときは再度確認することに課題があり、支援の情報共有されなければならないところにばらつきが生じている。	ミーティングにおいて、伝える側は周知したい内容を細部まで伝える。メモや記録をとり「もう一度確認」を徹底し職員間で共有する。疑問や不明点があれば理解するまで聞く。職員間のノートも活用しながら情報共有を徹底し、よりよい支援に繋げていく。
2	マニュアル(事故防止、送迎中の緊急時対応、防犯、安全計画)の整備と改善、訓練の実施がされていない。	BCP(災害発生時、感染症対策)は用意しているが、マニュアルも古い情報が含まれているものもあり、更新がなされていない。 火災、地震避難訓練不審者対策の訓練は行っているがその他の訓練は不十分である。	マニュアルの内容は定期的に整備し更新する。業務に大きな変更があった場合は確実に更新が行われるようにする。定期的な見直しとあわせて、緊急時に職員が適切に対応できるよう、平時から実践につながる訓練等の実施を行う。
3	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認していない。	こどもの障害や特性、また生育歴、服薬状況等、様々な項目について家族より聞き取りを行いアセスメントを行っている。 アセスメント表は事業所独自の内容を使用しているが、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用していない。	子ども家庭庁【別紙1-1】障害児の調査項目(5領域20項目)と事業所独自のアセスメントシートと併せて制作し、活用していく。